

第四回山頭火ふるさと館自由律俳句大会 受賞作品一覧

【一般の部】 応募数一八一〇句・応募者数七五四人

最優秀賞	防府市長賞	優秀賞	佳作				作品	氏名
汗の染み込んだ襷を受けとる	いま時を刻みはじめたあなたという時計	自在鉤ゆらり訛りで手をあぶる	人の群れ避けて靴ひも結ぶ私	福は内春に嫁ぐ子の声冴えわたる	振り向けない背中に孤独が棲んでいる	明るいほうへドアを開けてくれないか	ふりむけばふりむいている私が見える	埼玉県 中野 照夫
埼玉県 町田 瑞生	東京都 葉月	山口県 河野 京	埼玉県 石田 隆翔	東京都 新濃 健	山口県 田中 流転	新潟県 田辺まさゆき		

【子どもの部】 応募数六六二句・応募者数四九五五人

最優秀賞	防府市教育長賞	優秀賞	佳作			作品	氏名
お米がついたあたたかい母の手	たたみのおい木のおい幸せなおい	何も書いていないノートおだやかな昼下がり	何も無いそれが幸せ	小鳥のなき声ひとり聞くおるすばん	あと一歩あと一歩ゴール目指してあがる息		三重県 中3 酒井姫依利
山口県 小5 藤井 彩恵	山口県 小1 山根紗代子	山口県 中1 山根紗代子	山口県 小6 河野 悠希	山口県 小4 高杉 獅志	山口県 中2 福田 彩乃		

【一般の部】

つぼみ数えた指先に明日の匂い	山口県	葉子
一人一人そしていつか独り	滋賀県	北村 馨
風に口笛をぬすまれて歩く	鳥取県	狩野 美優
虹のように鮮やかに騙して欲しい	福岡県	重富 蒼子
豆腐売りの喇叭が下町の戸を開ける	愛知県	吉広 叶
濡れたままで立ち止まる雨の赤信号	沖縄県	真玉橋ひな
ぶつからない赤とんぼの世わたり	福岡県	青木 眸
君のえくぼに住みたい	埼玉県	青木 優都
気まずい顔でビールが冷えてる休肝日	埼玉県	明日原夏斗
好きな君の瞳に写るあの子の笑顔	沖縄県	石川 可恋
忙しい日々を抱えて時を追う	沖縄県	糸数妃菜乃
いこかもどろか昼蛙鳴く	東京都	今川 眞二
優雅な枯樹残る一葉の意地を見た	静岡県	内田 恒行
下り坂を上っていく	沖縄県	大城妃茹利
潮騒の音だけとなつて日も暮れきる	東京都	大野哲太郎
風に逆らわない濁音のない芒	京都府	金澤ひろあき
雪になり損ねた雨に濡れてゆく	兵庫県	鴨川 紡
敗戦の大陸路兵士は蟻と化す	山口県	河野 一遊
キャッチャーフライのような恋	京都府	岸野由夏里
ひとしきり月をさがす新月の夜	千葉県	木村 弘美
思い出がぼつんと落ちている引き潮	福岡県	熊猫太夫
ただいまを優しくむかえる夕げの匂い	神奈川県	小泉 信也
目が覚めて今日を生きる	神奈川県	櫻井 勇良
きょうの無事に安堵してあしたの足しにする	長野県	三年寝太郎
もうどこへも連れてつてくれない回転木馬	福岡県	重富 蒼子
泣くな泣ける理由も場所も無いぞ	埼玉県	穴戸 省太
足音でわかる妹の機嫌	東京都	篠 里央
嘯く顔にこめつぶ	北海道	清水 綾乃
小さなスニーカー干してある家に帰る	愛知県	高々骨駄
顔見知りの他人と会釈する	埼玉県	武宮 優貴
今日は泣いても許される日	埼玉県	館田 大輝
人生終う時私は何処へ行くのでしょうか	岐阜県	立松 朝子
紅葉のおしゃれ着私もまねて衣がえ	山口県	田中 律子
日だまりに君と寄り添う癌と知る日	広島県	田村 瑞江
歩んだ道気が付けば前に誰も居ず	千葉県	豊田佳津恵
返し縫いするように我が子を抱き締める	大阪府	中山 紗絵
癌告知ごめんねと君につぶやく	北海道	夏
涙の数だけ笑い皺よる	北海道	夏
待ちわびた文からあの日の匂い	東京都	葉月

洗濯物いっぱい干して今日もいい天気
しん／＼と音のない音真夜中の雪
世界はこんなにも脆いと知った夏
ああ母よ何もしなくなつた何も出来ない
もうみることもない小さくなつた父の背中
押し花を手によれば思い出は立体に
水まわり母のような手つき
抱き寄せる子に未来の残り香
ナビを消してあの夜に向かう
耳の遠い母愛想笑い愛おしく
幸せが玉子焼きの形をしていた頃
日没をまつすぐ見つけてありがとうと叫ぶ
道を聞かれまだ役に立つ実感

岡山県 平元 薫
群馬県 福田 英雄
千葉県 堀 卓
兵庫県 前谷 律子
千葉県 まんだはるか
東京都 村田千賀子
新潟県 村山 芳行
岐阜県 もうもうた
神奈川県 ゆき
鹿児島県 吉 哉郎
新潟県 涌井 悦子
岐阜県 海神 瑠珂
大阪府 渡辺 廣之

【子どもの部】

水の音しずくが広げる丸いわ
たんぼぼのわた毛夢をのせて飛べ
小さな悩み大きい宇宙
寝ころべば気持ちいい天日干ふとん
ススキは夕ぐれどきが光るとき
マフラーは人をつなぐかけはしだ
山だつてお化粧をしたい時もある。
そんなものと言う父からもらうカセットテープ
カレンダー日曜日は赤色
山色はけいじばんだからきせつたえる
思いきりけり上げたボールは空に消えてつた
おつてもおつても近づけないかげ
風の薫るふるさとをてふてふのゆく
自由が一番難しいよね
秋のもみじひらひらとまいおちて空見上げる
朝陽に向かうリュックと母の背中
道を見れば色々な人がつけたあと
あの日の夢を見る
光につつまれひろがる光空にさく花
都会のはずれに幽夜を求めて
空にはたくさんの模様がある
海の月クラゲキラキラ夜をいろどる
葉を踏む音に秋を見つけた
お前は誰だ
池の水の上をもみじのふねが遊ぶ

山口県 小4 岡本 侑也
鳥取県 小4 坂本 花恋
山口県 中2 福田 彩乃
鳥取県 小4 島村 頼翔
鳥取県 小4 武 美咲
山口県 小5 中本 梨瑚
山口県 中1 藤本 浩彰
東京都 中2 前岡 里奈
山口県 小3 米原 りお
山口県 小6 竹中 陽貴
鳥取県 小4 田中 蒼
山口県 小5 森重 翔太
山口県 中1 山根紗代子
山口県 小5 内田 瑞己
山口県 小6 梅田 恵里
神奈川県 小6 桜佳
山口県 小5 鍵谷 優太
高知県 中3 川田野々花
山口県 小5 神田康之介
大阪府 中2 凝光
山口県 中3 佐々木真広
山口県 小5 篠澤 悠希
山口県 中3 澁谷 夏輝
大阪府 中2 武信 慧士
鳥取県 小4 田中 愛羽

さくらさけばえがおもさくゆめの花
 春になり生命受けつぐ息の音聞こえる
 さんまが香るまつむしは鳴く秋の暮らし
 山たちが赤色のうわぎを着ている
 鳴き止みて秋夕焼け深し法師蟬
 木がゆれるのは楽しいからだよ。
 馬鹿だと自分に言い聞かせる
 あまりにも小さき祖母の靴に驚く
 陽だまりにカメモシ冬近きことを知る
 中三の秋公園が小さく見える
 あの人想い月を見上げる伝われと
 白くかがやきゆつくりふわりと空のたび
 冬の朝に下を見霜の花
 分け目のない海と空
 今日の楽しみは6時間目の算数だ
 夕焼けと赤とんぼが重なり美しい
 秋の温かさは家族の温かさ
 ふうせんみたいにひろがる心むねいつぱいに

山口県 小4 堤 大輝
 山口県 小5 中川 陽斗
 山口県 小6 中島 星太
 山口県 中3 中野はなえ
 山口県 小6 檜垣光太郎
 山口県 中1 藤本 浩彰
 三重県 中3 古田 結生
 東京都 中2 前岡 里奈
 東京都 中2 前岡 里奈
 三重県 中3 前田 純輝
 福島県 中1 松本 彩楓
 山口県 小5 三戸菜々子
 山口県 中2 三卷 輝砂
 山口県 中1 三宅 潤弥
 山口県 小4 安野 暖
 山口県 小6 吉岡 楓香
 鳥取県 小4 蓮佛 美晴
 山口県 小5 渡邊 詞音